健康通信

～小牧市民病院より～

脳梗塞と思ったら早めに専門病院への受診を！

神経内科　兼
リハビリテーション科　部長医師
千田　譲

脳梗塞とは、脳の血管が詰まり脳の一部が死んでしまう病気です。脳出血やクモ膜下出血は、脳の血管が破れて血液が漏れだし脳の組織が破壊される病気です。脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血をまとめて脳卒中と言います。以前は高血圧を背景にした脳出血が多かったのですが、現在では脳梗塞が脳卒中全体の75％を占めるようになりました。CTやMRIの普及により診断精度が格段に向上し、治療法も次々に進歩しています。しかしこれら脳梗塞の治療は、脳梗塞が起こってから時間があまり経っていない時にしか行えません。効果があるかどうかには時間的な制約が大いに関係しているからです。

特にt-PA治療（t-PAという血栓を溶かす作用のある薬剤を静脈注射する治療方法）は、脳梗塞が起こってから4時間半以内、カテーテル（細い管）を使って詰まった血栓を除去する血管内治療は、起こってから8時間以内の患者さんが対象となります。この限られた時間内に、いかに早く専門病院を受診し治療を受けられるかどうかが、その後の経過を大きく左右します。

ですから、図に示すような症状が急に起きた際は、可能な限り早く専門病院を受診してください。直ちに119番に電話して救急車を呼び、専門病院で診てもらうことです。重症の場合はもちろん、軽症と思われる時も救急車を利用してください。これは一刻も早く搬送するためであり、また搬送途中で症状が悪くなる危険性もあるからです。

小牧市民病院では、2017年は脳梗塞患者さんを約380名入院対応しました。これは愛知県内の病院では5番目に多く、尾張北部の専門病院では最大の症例数となっています。

しかし残念ながら、先ほど述べたt-PA治療やカテーテル治療を行う上で最も効果が高いとされる、発症3時間以内の受診率は約40％と全国平均値とは変わらないものの、発症後1日以上を経て来院される方が3分の1近くもあり、これは全国平均値より悪い傾向にあります。これらの患者さんは、症状が出てもご自分やご家族の判断で様子をみてしまい、結果として受診までの時間が遅くなり、適切な治療が受けられなくなっています。

万が一脳卒中・脳梗塞の症状が出現したときは、一刻も早く専門病院を受診していただくよう、この機会に覚えておいて下さると幸いです。

問合先　市民病院（☎76・4131）

information

お知らせ

市民病院職員募集

◆**助産師・看護師**

採用予定人数　40人程度

受験資格　「助産師または看護師資格取得者」、「平成31年3月助産師または看護師資格取得見込者」

対象　昭和44年4月2日以降に生まれた方

勤務　病棟勤務　3交替と2交替
外来・手術室勤務　2交替

勤務開始日　平成31年4月1日採用

提出書類　①　履歴書（写真貼付）
②　卒業証明書または卒業見込証明書
③　資格免許証の写し（資格取得者のみ）

試験日時　5月26日㈯、6月2日㈯午前8時30分～

試験内容　**適性検査、面接、作文**

試験会場　市民病院8階講堂

申込み　5月26日㈯の試験は5月18日㈮、6月2日㈯の試験は5月25日㈮（必着）までに直接または郵送で市民病院総務課（〒485・8520　住所不要☎76・4131）へ

※資格取得者は平成30年7月（昭和43年7月2日以降に生まれた方）、平成30年10月（昭和43年10月2日以降に生まれた方）または平成31年1月（昭和44年1月2日以降に生まれた方）の採用も可能です。